

CUC Summer Program 2024

July 29 – August 7

Student Magazine



CUC Summer Program 2024

本学学生の声（一部抜粋）

1. 宮澤 星夢 (MIYAZAWA RAMU) _国際教養学部 国際教養学科
2. 馬 鋭 (MA RUI) _政策情報学部 政策情報学科
3. 上田 美智瑠 (UEDA MICHIRU) _商経学部 商学科

【プログラム概要】

日程: 2024年8月17日~26日(10日間)

参加 CUC 学生所属

学部別	人数
商経学部	12
政策情報学部	5
サービス創造学部	3
人間社会学部	2
国際教養学部	9
大学院	1
合計	32

学年別	人数
1年	15
2年	10
3年	2
4年	4
大学院	1

プログラムスケジュール

午前		午後
7/29		入国～14:00 オリエンテーション①16:00～ 17:00～チェックイン
7/30	オリエンテーション②、学生との交流 ウェルカムパーティー	アクティビティ【1】 ◇13:30～15:00 浴衣体験 ◇15:00～16:30 茶道体験
7/31	9:30 講義①<<THUY 先生>> 11:10 講義② 12:40 昼食	アクティビティ【2】 13:30～18:00 東京国立博物見学
8/1	9:30 講義③<<手嶋先生>> 11:10 講義④ 12:40 昼食	アクティビティ【3】 13:30～17:00 CUC 学生企画
8/2	横浜バスツアー9:00～18:00（グループ毎のミッションクリアチャレンジ）	
8/3	自由時間	
8/4	自由時間	
8/5	9:30 講義⑤<<山内先生>> 11:10 講義⑥ 12:40 昼食	13:30～16:00 国際教養学部共同企画（奄美研修の紹介） グループ毎のポスターセッション準備
8/6	9:30 講義⑦<<橋本先生>> 11:10 講義⑧ 12:40 昼食	13:30～15:00 ポスターセッション 15:30～17:30 フェアウェルパーティー
8/7	チェックアウト～10:00	出国

CUC Summer Program レポート

千葉商科大学 宮澤星夢

千葉商科大学に入学する前から参加したいと考えていた CUC Summer Program。念願叶ってこの夏、初めて参加することができました。このプログラムへの想いと、実際に参加してみて得た経験について、以下に述べます。

1. CUC Summer Program への想い

私がこのプログラムに関心を抱いたのは、この大学入学前に遡ります。当時高校生だった私は、千葉商科大学のオープンキャンパスで初めてこのプログラムの存在を知りました。当時から海外への興味が強く、海外の人々と触れ合う機会の多い大学を探していた私は、このプログラムに惹かれました。しかし、大学入学の数カ月前からパンデミックが発生し、このプログラムも中止となってしまいました。ついに再開した去年は、オープンカンパニーなどの忙しさにかまけて参加を見送っていたため、今回は初めての参加となりました。大学生活最後の年によくこのプログラムに参加できたことは、とても大きな喜びでした。

2. 留学生との交流

台湾から来た留学生とは、文化や歴史など多くの共通点があることから、特に話が弾みました。例えば、日本企業が台湾にも進出しているためくら寿司やドン・キホーテなどの同じ店があっても売っている商品は異なることや、山芋など他の国の留学生が珍しそうに見ている食材に対して台湾にもあることを教えてくれたことなどです。台湾のくら寿司には抹茶ソフトクリームなどの美味しそうなデザートメニューが日本よりも豊富にあり、少し羨ましかったです。

日本の特殊な文化を自覚した思い出もあります。ベトナムからの留学生と一緒に買い物をしていた時のことです。日焼け止めクリームを見ていると、白以外にも紫、緑、黄色、ピンクの5色が並んでいました。それに対して、中身は同じで色が違うだけなのか、なぜこんなにもカラーバリエーションがあるのか、という質問を受けました。一色ずつ色の効果を説明したのですが、紫をトーンアップ(肌を白く見せる)ということ話をすると怪訝な顔をされ、私自身も話しながら違和感を覚えました。日本の美の基準について考えさせられ、肌が白い方が良いという考え方は国内ぐらいでしか通用しないと痛感しました。

3日目に訪れた東京国立博物館は、私自身も入館するのは初めてでした。一緒に巡った留学生たちは着物に興味があるようで、浴衣と着物の違いや、着物の歴史など様々な質問を受けました。彼女たちの日本を知ろうとする熱意に感心し、話も盛り上がりました。

プログラム最終日に行われたフェアウェルパーティでは、学生同士で寄せ書きを行ったことが印象に残っています。仲良くなった子たちとメッセージを書き合い、一緒に過ごした

思い出を振り返る時間は、とても貴重なものでした。色紙は、このプログラムでの思い出を形として残せる、素敵な記念品となりました。

3. プログラムを通じて得たもの

私は国際教養学部にも所属しているため、2カ月間の留学や5日程の海外研修が必修であるなど、海外の人々と交流する機会には恵まれていました。しかし、今回のプログラムはこれまでの経験とは全く異なるものでした。今回は、あくまで「迎え入れる側」であり、留学生に対して、日本の文化や生活習慣などを説明し、サポートをするという役割を担いました。これらの経験から、自分の言葉で相手に説明をして理解してもらうことの難しさ、今まで疑問を持つこともなかったことを質問されることで新たな着眼点に気が付くことができたこと、そして自分の生まれ育った国について知ってもらうことの楽しさを学ぶことができました。また、数名の留学生とはプログラム外でも遊びに行くほど仲を深めることができ、より多くの楽しい思い出をつくることができました。



Summer program レポート

千葉商科大学
馬 鋭

私は、大学生活において自分が本当にやりたいことを見つけることができず、悩んでいました。そんな時、ゼミの先生に相談したところ、CUC Summer Program を勧められました。先生からこのプログラムがどのような内容であるかを聞き、さまざまな国の学生と交流しながら英語を使う機会があることに魅力を感じました。また、年内に TOEIC のテストを受けたいと考えていたので、英語力を向上させるためにも良いチャンスだと思い、参加を決意しました。しかし、初めは友達が誰もいない中で新しい環境に飛び込むことに大きな不安を感じていました。それでも、プログラムが始まると、他の参加者から積極的に話しかけてもらい、すぐに打ち解けることができました。

初日の空港では、さまざまな国から来た外国人学生と出会い、異文化交流の新鮮さに驚きを覚えました。普段の大学生活ではなかなか経験できない国際的な環境の中で、多様な価値観に触れることができたのは、とても貴重な体験でした。プログラムの中でも特に印象に残っているのが、茶道体験です。この体験では、初めて浴衣を着る機会があり、友達と一緒にたくさんの写真を撮りました。日本の伝統文化に触れることで、改めて日本の美しさを実感し、同時に自分自身の文化を再認識することができました。また、東京国立博物館では、さまざまな時代にわたる歴史的な作品を鑑賞することができ、その芸術性や歴史的価値に深い感動を覚えました。これらの経験は、私の視野を広げ、異なる文化や歴史に対する興味を一層深めるきっかけとなりました。

さらに、横浜バスツアーでは、グループで協力してさまざまなミッションをクリアすることができました。これにより、仲間との絆が一層深まり、グループワークの大切さを改めて実感しました。チームメンバーと共に目標に向かって取り組むことで、信頼関係が築かれ、その達成感は何事にも代えがたいものでした。

講義では、「貧困連鎖の解決」、「持続可能なビジネスモデル」、「ChatGPT を用いた言語学習」、「AI と倫理」など、非常に興味深いテーマについて学ぶことができました。すべての講義が英語で行われたため、完全に理解するのは難しかったものの、それでも積極的に授業に参加し、グループワークにも取り組むことができました。英語でのディスカッションやプレゼンテーションを通して、自分の英語力に少しずつ自信がつき、また新しい知識を得ることができました。

プログラムの終盤に行われたポスターセッションでは、私たちのグループは日本、インド、ベトナムの交通機関や寺院について調査しました。メンバー全員が夜の 9 時まで一生懸命にポスターを作成し、その努力の結果、ポスターデザイン賞を受賞することができました。特に感動したのは、国籍や言語が異なるメンバーと一緒に、一つの目標に向かって協力し合えたことです。この成功体験は、私にとって非常に大きな達成感をもたらし、自分の成長を実感することができました。

今回のプログラムを通じて、他の学部の学生や外国人とのつながりを持つことができたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。また、この経験を通じて英語をもっと学びたいという気持ちが一層強まりました。異文化交流や英語の学習を通じて、今後もさまざまな国の人々とコミュニケーションを取りながら、より広い視野を持って成長していきたいと思います。CUC Summer Programに参加できたことに感謝し、これからも積極的に新しい挑戦を続けていきたいと考えています。



私は、大学で実用的な英語力を身につけようと、英語の授業を積極的に受けるだけでなく、英語を使った交流活動にも参加していました。その中で、海外の学生と直接交流できる機会を探していたところ、Summer Program の案内を見つけました。このプログラムでは、世界各国から集まった学生と共に過ごし、英語でのコミュニケーション能力を高めるだけでなく、大学内での交友関係を広げることができると期待していました。

プログラムに参加する前に最も期待していたことは、海外の学生との交流でした。その期待通り、このプログラムでは多くの交流ができました。特に横浜観光が印象に残っています。観光するだけでなく、チームでミッションをクリアしていく形式で行われたため、より深い絆を築くことができました。観光地を巡りながら、みんなで意見を出し合っって作戦を立てたり、ユニークな写真を撮ったりと、非常に楽しい思い出となりました。



▲図：メキシカンな写真 at 横浜赤レンガ倉庫

しかし、海外の学生とのコミュニケーションは思った以上に難しいものでした。私の英語力が未熟なため、伝えたいことがうまく伝わらない場面が何度かありました。そのような時には、周りの日本人学生に助けってもらったり、分からないことを素直に伝えて他の言い方で説明してもらったりしました。このプログラムを通して、言語の壁を改めて実感しました。それでも、言語の壁を越えて打ち解けることができたと感じています。完璧な英語での会話ができなくても、共に過ごす時間の中で少しずつ心の距離が縮まっていくのを感じました。朝

起きたら「おはよう」と声を掛け合い、昼には「おなかすいたね」と話し、夜に寮に帰ってくると「お帰り」と互いに声を掛け合うことで、親しみが生まれてきました。言語の能力以上に、基本的な人との付き合い方が重要であることを改めて感じた瞬間でした。また、このプログラムを通して、私には英語力だけでなく、英語を使うことへの自信のなさや、過剰な迷いが課題であると強く感じました。今回、海外の学生と話せそうなタイミングが何度もあったにもかかわらず、緊張して声をかけられないことが多々ありました。私はもともと人とのコミュニケーションが得意ではなく、日本語でさえそのハードルが高いのですが、英語だとそのハードルがさらに高くなります。何を話しかけようかと考えても、うまく伝わらなかったらどうしよう、逆に相手の言葉を正しく受け取れなかったらどうしようと、考えすぎてしまうのです。しかし、そのように悩んでいる間に、気まずい空気が流れてしまい、せっかくの英語を使うチャンスを逃してしまうことにもなりました。今振り返ってみると、無駄に考える前に勇気を持って行動していれば、もっと海外の学生たちとコミュニケーションが取れていたのではないかと思います。このプログラムを通じて、コミュニケーションの成功は英語力だけに依存するものではないと強く実感しました。

この10日間のプログラムを通じて、私は多くのことを学び、成長することができました。言語の壁がある中でも、共に過ごす時間を通して信頼関係を築くことができたことは、今後の私の人生において大きな財産となるでしょう。この経験を糧に、今後も積極的に英語を学び、さらに多くの国の人々と交流していきたいと思います。また、新たに見つけた課題を克服するために、今後は、もっと積極的に英語を使っていきたいと思います。





